

<タイトル：企業内労働市場における転職と昇進の関係>

東京大学大学院経済学研究科博士課程

佐藤 香織

本稿では転職者の転職先における昇進状況に注目し、「リクルートワーキングパーソン調査」を用いて、転職者の職種及び転職先企業の規模によって、通常管理職及び管理職相当の専門職への昇進確率が異なるかどうかを分析した。その結果、技術・専門系の職種に従事する転職者は生え抜き社員よりも管理職相当専門職へ昇進しやすいこと、企業規模が2000人以上の大企業では転職者は生え抜きと比べて通常管理職に昇進しにくいことが明らかになった。これまでの理論及び実証研究では、転職者は生え抜きに比べて昇進が不利であるとされてきた。しかし、従業員が2000人未満の企業では技術・専門職種に従事する高度なスキルを持つ転職者はその能力に見合った処遇を受けていること、更に通常管理職への昇進には転職経験は影響しないことが示された。中小企業においては専門職制度は管理職とは別個のキャリアコースとして位置づけられ、従業員の採用・配置が行われていることが示唆された。